

平成28年度当事者団体ヒアリングまとめ〈抜粋〉

No.	団体名	主なご意見
1	5/1 小牧市身体障害者福祉協会	<ul style="list-style-type: none"> ① 障害者の就労がうまくいかない。 →原因は、職場や同僚の理解のなさ、本人の甘えなどがある。 →トラブルがあったときに相談できる場がなく、職安にいけない人もいる。 ② 精神障害者などは床屋にも行けない。理解してもらえるところが少ない。 ③ 学校教育で障害者理解を進めてほしい。 ④ 重度障害者は施設に入所できるが、軽度者の居場所がない。 ⑤ 個々の障害に違いはあるが、特に心のケアをすることが難しい。 ⑥ 障害者の悩みの声をまとめてほしい。 ⑦ 相談支援の窓口が周知されていない。PRをしっかりしてほしい。
2	5/10 小牧市手をつなぐ育成会	<ul style="list-style-type: none"> ① 生活に便利な場所に小規模入所施設（20人程）が欲しい。 ② 新設の施設などの障害サービスの情報はどこで教えてくれるのか。 ③ 既存の事業所にサービスを増やしてほしい。 ④ 送迎サービスがほしい。 ⑤ 制度が変わりすぎて分からない。 ⑥ 親が年をとっても通えるところがあればいい。 ⑦ 24時間緊急で利用できるヘルパーや入所施設が市内に欲しい。 ⑧ アンケートやこのような質問に答えることはあるが、それについての返答がない。 ⑨ 育成会の人員が減っており、若い親に障害者団体に関わってもらいたい。 ⑩ 地域の人や、同じ障害を持つ親同士で話ができて、情報も入る。 ⑪ 年齢が様々なので、子どもの将来を見据えることができる。
3	6/2 小牧市肢体不自由児（者）父母の会	<p>親の高齢化にともなう本人の生活できる施設、場所が課題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 早期に障害診断をしてもらえない。 ② 先輩親が障害であろう子どもの親にアドバイスをするが、嫌がられる。 ③ 特別支援学校によって医療的ケアの対応に差がある。（小牧特別支援学校は、週に1, 2回看護師が医療的ケアを行う。） ④ 在宅の訪問看護ステーションで、リハビリと訪問看護を一緒に行う事業所がない。また、市内の訪問看護事業所の情報が流れてこず、把握できない。 ⑤ 親の体調が悪い時に子どもを預かってくれるところがない。 ⑥ 訪問入浴は、利用できる回数が決まっているため、希望している入浴日数の利用を受けることができない。 ⑦ 最新の市内の障害福祉サービス情報を手に入れる手段がない。 ⑧ 特別支援学校に通っている時は、放課後等デイサービスを利用し、遅くまで預かってくれるために親は仕事ができるが、卒業後だと生活介護の預かる時間が限られていて、親は仕事ができなくなる。 ⑨ 小牧で障害医療ができる病院、診療所、歯科医院、訪問看護ステーションの一覧表の作成。 ⑩ 障害を受け入れる病院、診療所、歯科医院の受け入れ姿勢、対応勉強会。

No.	団体名	主なご意見
4	5/17 小牧市視 覚障害者 友の会	<p>① 会員が高齢化しており、老人会のようになっている。(50代2名、60代1名、70代80代がほとんど)</p> <p>② 外出が難しくなる会員もいるが、他の団体と交流会を続け、友の会の活動を継続している。</p> <p>③ 若い人を増やしたい。</p> <p>④ ボランティア養成講座の講師として視覚障がいのある人の生活について伝えている。依頼があればまた講師をしてみたい。</p> <p>⑤ ほとんどの人がヘルパーを利用し、外出したり家事支援を受けている。</p> <p>⑥ サービス利用以外には通販などを利用している。</p> <p>⑦ 金銭管理に困っている人も多い。</p> <p>⑧ 介護保険に移った時にサービス量が減ったり、支援内容が変わったりすることがある。視覚障害者の65歳問題は大きい。 特に、家事支援を充実させて欲しい。手紙の確認や書類の記入、文書の整理、通販の申込みができなくなる。</p> <p>⑨ 介護保険の認定調査やケアマネジャーからの聞き取りでは、視覚障がいの困りごとをくみ取ってもらえない。</p> <p>⑩ 運動する機会がない。(ヘルパーの移動支援でジムへ通っている人もいる)</p> <p>⑪ 料理が苦手なヘルパーが多いので、ヘルパーの料理教室を開いてほしい。</p> <p>⑫ 配食サービスや見守りをしてほしい。</p>
5	5/18 小牧市聴 覚障害者 福祉協会	<p>① 遊び(個人の楽しみ)や緊急時では、手話通訳者の派遣はできないため困っている。</p> <p>② 手話サークルの高齢化、若者が参加せず、通訳者が少なくなっている。(スマホ、メールの普及でサークルに来なくても個人でやりとりできる。)</p> <p>③ 災害時や避難所では、「支援食が届いた。」と放送されても情報が伝わらない。ボードに書くなど目で見てわかるように意識づけができるとよい。</p> <p>④ 巡回バスが使いづらい。手帳を見せると無料になるが、本数が少ない。(自分の好きな時間に活動することができない。)</p> <p>⑤ 地域住民が集まる会に通訳がつかないので、欠席している。</p> <p>⑥ 耳が聞こえない事でひきこもっている人などの情報がない。市からは個人情報なので、教えてもらえないので、働きかけができない。</p> <p>⑦ 福祉やいろいろな情報が入ってこない。</p> <p>⑧ 手話奉仕員が小牧にはいない。</p> <p>⑨ 手話が出来なかつたりするので、地域の小中学校に通い、高校から聾学校に行っても結果的に孤立してしまう。</p> <p>⑩ 避難所に耳が聞こえない方がいることを想定し、家庭訪問や手紙などでひきこもっている方の情報を把握してほしい。</p> <p>⑪ 絵や簡単な文字で耳が聞こえない方でもわかりやすい情報提供してほしい。</p> <p>⑫ 通訳がどこにいるか防災マップに記載してはどうか。</p> <p>⑬ 聞こえない方がどこの地域にいるか把握し、何かあった時にすぐに対応ができるようにする必要がある。</p>

No.	団体名	主なご意見
6	6/18 小牧市難聴・中途失聴者協会	<ul style="list-style-type: none"> ① 広報に乗っている行事などに応募したいと思っても電話番号しか載っていない。FAX番号で受け付けてほしい。 ② 市がかかわる主催の祭りのブースで、耳マークを知らない人が多かった。マークの普及をしてほしい。 ③ 難聴者や中途失聴者は、しゃべれるので障がい者と思われず、筆談の必要性が理解されない。また、手話がわからないことへの理解もない。私たちの困っている状況への理解が広がることを望んでいる。 ④ 自分たちも普及に必要なことは伝えていきたい。 ⑤ 聴覚障害者の団体は多くの自治体にある。難聴・中途失聴の団体も増やしていきたい。
7	7/17 とまり木	<ul style="list-style-type: none"> ① 医療費は精神保健福祉手帳3級だと内科、眼科、歯科については、3割の自己負担支払い。負担が大きい。タクシー券の補助もない。精神保健福祉手帳2級と3級で、補助の差を感じる。 ② 生活の困り事を相談できる場がない。ご近所トラブルなどのことは、相談がしづらい。 ③ 精神障害者が気軽にバス旅行や行事に参加できる機会があるとよい。 ④ 名古屋市外の精神保健福祉手帳所持者は、市バスや地下鉄の運賃に補助がない。 ⑤ 名鉄電車は、精神保健福祉手帳所持者に運賃の補助はない。
8	5/14 青空の会	<ul style="list-style-type: none"> ① 日中、集まれる場はあるが、夜間はない。夕方以降の集まれる場所が欲しい。 ② 集まる場所があっても居場所がないと感じる。多くの人と関わらなくてもよい場所もあるとよい。→これからは多様なニーズにあった場所が必要。 ③ 小牧市は精神科がある病院やクリニックが少ない。また他市では“精神科”と掲げていない。いまだに偏見を感じるのでネーミングを変えてほしい。 ④ 巡回バスの本数が少なく、移動手段に困る。 ⑤ 外見的に精神障害者の障害が分かりにくく、制度を利用する時に様々なトラブルがある。 ⑥ 情報が少ない。“青空の会”についても知る機会が少なかった。今後は周りに周知してもらうためにチラシを使って積極的にPRしていきたい。 ⑦ 小牧市でもメンタル相談を積極的に行ってほしい。
9	6/15 アザレア会	<ul style="list-style-type: none"> ① 親の高齢化に伴い、本人の将来が心配。グループホームが増えてほしい。 ② 入院後、体調が良くなっても自立にはつながらない。生活する上で必要なスキル（家事、お金管理、買い物）を身につけることができる宿泊型自立訓練施設があると良い。 ③ 家族を持ち生活しているが、時に調子を崩すと実家に駆け込んでくることがある。親も高齢であるので、実家以外に駆け込める場所、電話先があると良い。

No.	団体名	主なご意見
		<p>④ 年代的には、若いので 20 年後 30 年後に周りの先輩が心配していることが解決されていると良い。親として、本人が色々な選択肢から選ぶことができると良い。</p> <p>⑤ 未受診で、保健所からの訪問が家族以外の唯一の接点。職員の移動があり、現在男性であるので、訪問は断っている状況。継続的に訪問してもらえる環境がほしい。</p> <p>⑥ 成年後見制度に不安を感じている。信頼できる機関がほしい。</p>
10	5/20 ポプラの 会	<p>① 発達障がいのある子どもは通える歯科、耳鼻科、眼科が少なく市外に通院している方が多いが、地元の病院に通いたい。一宮市では歯科医師会へ発達障がい児への診療ができる認定医の研修の仕組みがある。</p> <p>② あさひ学園では母親同士の繋がりはあるが、小学生になると繋がりがなくなる。障がいがグレーな子の親は、相談もできず家族単位でがんばっている。気軽に集まることのできる場があると良い。</p> <p>③ 不登校の児童への対応が必要。</p> <p>④ 親を精神的にサポートしてくれる機関として医療機関の役割は大きい。親が偏見を持たず気軽に受診できるようになると良い。</p> <p>⑤ こどもクリニックが開設してる訓練中心のデイサービスがある。知らない親も多く、相談員からの情報提供が必要。</p> <p>⑥ 訪問リハビリの事業所が少なく、市外の事業所を利用している。相談員からの情報提供が必要。</p> <p>⑦ 今後、日中一時支援と、児童発達支援もしくは放課後等デイサービスの併用ができなくなるため、対応が心配。親が働けなくなったり、生活リズムが変わったりする恐れがある。</p> <p>⑧ 医療ケアが必要な肢体不自由の子どもが通える場が少ない。</p> <p>⑨ 一宮市のように医療的ケアの研修があると良い。</p> <p>⑩ 外国籍の子どもがサービス利用できるような通訳の支援や、親同士の会へ参加し交流できるような支援があると良い。小牧市にタガログ語の通訳がない。</p> <p>⑪ 地域の中学校へ通う子どもと親への情報がない。卒業後の選択肢がない。地元の中学校と特別支援学校へ通うことのメリット・デメリットについての情報がほしい。</p>
11	5/19 パパママ サポート あおぞら	<p>① SIP おおくちキャラバン隊に入り、障害の疑似体験ができる取り組みをしている。(市民参加)</p> <p>② 同じ障害を持った親の交流会、研修会を開いている。</p> <p>③ 小中学校の全生徒向けに、1年に1回障害についての説明や、このような心配はないかなど障害について書いてあり、相談機関も記載してある用紙を配布してもらえるようにしたい。</p>